

ふくしまインフラ 長寿命化研究会 活動領域を拡大

品質確保へ舵取る

キーワードは「いいものを作る、みんなで作る」

ふくしまインフラ長寿命化研究会(会長・岩城一郎日本大学教授)は、『いいものを作る、みんなで作る』をキーワードに、これまでの既設構造物の維持管理に限らず、新設構造物の長寿命化にも活動領域を広げ、コンクリート構造物の品質確保に取り組むことになった。

現在、山口方式が全国各地に浸透しつつあり、国土交通省東北地方整備局も3年前から試行工事を実施している。群馬県も今年度から試行工事を開始し、県内12土木事務所およびチャレンジ現場でそれぞれ1構造物ずつ

「いいものを作る、みんなで作る」

得るために東北地整が3年前から進めている試行工事は橋梁下部工、トンネル覆工、RC床版などに順次展開され、実効を

あげてきた。「福島河川国道事務所も年内に品質確保に関する講習会を開く予定と聞いている。ふくしま版の品質確保に関するシステムづくりにあたり、群馬県版を参考にしたいと考えている」



パネル討論も実施

も新設プロジェクトが計画されている。インフラ長寿命化のために新設コンクリート構造物の品質確保が求められ、産官学連携による新たな取り組みが開始される見通しだ。

これは同研究会が9月29日に日大工学部ハットNで開いた第4回へ市町村橋梁の長寿命化を考えるシンポジウムで発表したメッセージで、6氏が関連する話題を提供した。

次は広島大学大学院の半井健一郎准教授が「コンクリート構造物の長寿命化に向けた施工による品質確保の要点」と題し、群馬県での取り組みを詳しく解説した。続いて東北地整道路工事課の遠藤雅司建設専門官が「新設橋梁における長寿命化の取り組み」と題し、現状のコンクリート

支援助路である相馬福島道路(霊山〜福島間)の橋梁建設が最盛期を迎えつつあり、13の橋梁とトンネル4本が建設される。目玉となる桑折高架橋は長さが1218メートル、橋脚は23基、その最大高さは地上30以上に達する。また、会津縦貫南道路では半分が橋梁とトンネルになる。このほかに

品質は(施工の不具合等によって)まだ満足できない状態ではないとした上で、施工状況把握チェックシートを活用してPDCAを回した結果、非常に良好な品質が得られ、施工者の自信にもつながっていると述べた。配合や打込み、締め固めの試行とともに養生方法も試行し、透気試験などで把握した効果をデータベース化。12月をメドに「コンクリート構造物品質確保の手引き」をとりまとめ、来年度以降も試行工事を継続し施工のポトムアップを図る考えだ。さらに日大の子田康弘准教授が「動き出す! 福島県内における構造物の品質確保の取り組み」、会津土建の宮井隆利氏が「構造物の品質確保へ向けての地元建設会社の課題」と題し、ふくしま版の品質確保への期待を示した。

と題し、ふくしま版の品質確保への期待を示した。